

MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第33号 2013年11月

もくじ

故糸井守理事長を偲んで	川真田 直之
MECCの新体制	泉 浩 二
E C U環境教育イベント「環境と仲よくしよう」展開催	倉光 康夫 井田 秀明
生きもの語り「日本の食の深い味わい方」	林 鷹 央



黄河源流域のブルーポピーとイエローポピー
(提供：藤井健史氏)

故糸井守理事長を偲んで

理事長 川真田 直之

本年8月12日に糸井守理事長が急逝されたことは、私どもMECC会員にとって大きな驚きと深い悲しみを味わうと同時に、大きな痛手となりました。

糸井氏はMECCの創立から、活動の輪を広げることに熱心に取り組みました。MECC範囲内の各自治体との関係強化のため交流懇親会を始め、各種補助事業の発掘に勢力を注ぎました。特に本拠である武蔵野市との関係では、市の環境調査や原発事故後の放射能汚染調査、市民への環境問題啓発のための講演会などを多数企画し推進しました。その場合には、環境省からの講師や都の研究所員を招聘し会を盛り上げました。

他の環境団体との交流も自ら加入し、協賛事業なども多数企画し推進しました。神田川ネットワークや四万十川流域住民ネットワークとの広域交流も行い、その活動の中で、平成17年に地球環境大賞を受賞しました。更に、井の頭池の外来魚生息状況調査を目的に魚釣りを実施し、近所の老人や子供に魚釣りの面白さを体験してもらったり、井の頭池の浄化実験のために、空心菜の水耕栽培を行ったり、河川の水質調査への協力を推進したり、バス研修見学会の推進をするなど、その段取りだけでも大変な仕事なのに、糸井氏は難なくやっていたのけました。

また、都の無料配布苗木を取り寄せて、緑化の推進を殆ど単独で実施しました。これらを実施する傍ら、各種の団体の理事職・委員職を兼ね、更に硬式テニスまで上手にこなすスポーツマンでもありました。

このように、糸井氏は多方面の活動を行っていましたが、それには確固たる信念を持って行動していたように思われます。何か活動を提案する時に、目的・目標を明確にし、方策を分析・構築して、結果の予想までを事前に評価していたからです。そのため、話には説得力がありました。環境教育に携わる時には、必ずこの企画立案方式を説明していました。

多方面で実行力のあった理事長の後を継承することは、極めて荷の重いことです。同じようには

勤まらないでしょうが、推進途中だった生物多様性促進と武蔵野の自然をテーマとした環境保全シンポジウムを成功させるよう、MECCを運営する所存です。

会員の皆様には各方面の一翼を担って頂く必要があろうかと思っておりますので、ご支援とご協力をお願いする次第です。

糸井さん、MECCの行く末を天国から微笑んで見守ってください。



ありし日の糸井氏



糸井氏葬儀

MECCの新体制

副理事長 泉 浩二

糸井理事長が急逝されたことにより臨時に理事会が開催され、当面の暫定処置として（理事長に川真田さん）川真田新理事長、副理事長に泉が就任し、今期の協議会運営にあたることとなりました。

協議会の運営において、まずは5月の総会で定めた今年度の活動計画を、担当者・参加者の努力及びMECCとしての支援によりできるだけ予定どおり実施してゆくことが必要であると考えています。また、前理事長が直接担当されていたプロジェクトについては、各プロジェクト参加者が各々可能な範囲で推進していくことが必要です。

MECCも設立して13年目を迎えますが、これまでは糸井前理事長の強力なリーダーシップのもとで幅広く様々なプロジェクトを行ってきました。しかしながら日本各地で組織、運営されている環境カウンセラー協議会が共通して持つ悩みであるかもしれませんが、環境カウンセラーが集う協議会の活動や運営がどうあるべきかを問われつつあるようにも感じられます。

当協議会においても、今後の活動の方向性についていくつかの提案が議論されているところです。一つには今まではやや事業者部門に偏りがちだったプロジェクトを、市民部門側にも目を向け、市民の環境活動に沿ったプロジェクトも行っていくことで、より市民レベルへシフトしてみてもどうかという提案があります。また先般関東圏の環境カウンセラー協議会が共催して行った国連大学建物内の展示スペースでの環境教育イベントでは、まだまだ環境カウンセラーの認知度の低さが大きな課題として残り、対外的なPR活動のさらなる強化が必要であると感じられている会員もおられます。

このような提案や課題を一つ一つクリアしていくことが、これからの協議会運営に求められているものと考えております。

今年度もあと半年程度となりました。臨時の新体制ではありますが、理事長、副理事長、理事をはじめ会員それぞれが役割を果たしてゆくことでこの事態を乗り越えたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

ECU 環境教育イベント 「環境と仲よくしよう」 展開催

倉光 康夫 井田 秀明

地球環境パートナーシッププラザ(渋谷:国連大学 1階内)において9月17日~28日まで全国環境カウンセラー協議会 (ECU) による環境教育イベントの一環として展示会を開催しました。当武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会をはじめとし、杉並、城北、城南、千葉、福島などの多数の協議会の参加を得て、活動内容を紹介するパネル展示とセミナーやモノづくり体験のイベントを実施しました。

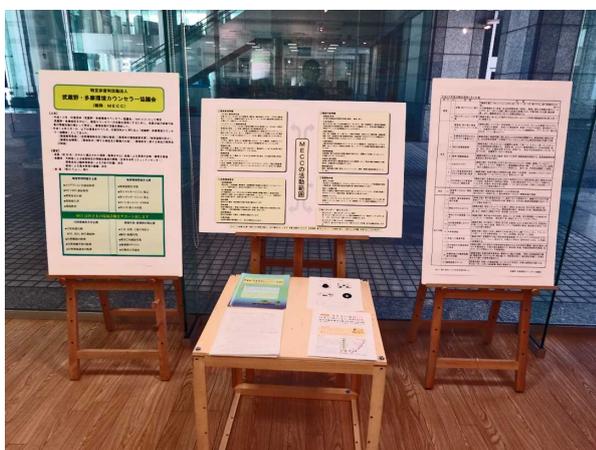
関係者の方々には多数参加して頂きましたが、会場が人通りの多い渋谷・青山通りに面していたものの多少奥まった場所であったためか、目立つほどの一般の見学者の参加はありませんでした。

各団体との共催を得ての初めてのイベントだったため、準備不足が危惧されたものの関係者各位の積極的な協力が得られ、多様な催しを実施することができました。

なお、このイベントは故糸井前理事長がされたものでしたが、そのご遺志を引き継ぎ故人に無事に終了を報告できたことに安堵しております。

◎ MECCのイベント

MECCで担当したイベントは①「EA21 環境経営システム推進者の集い」(25日)、②「日本の食の深い味わい方」(27日)です。



MECCの活動内容を3枚のパネルで紹介



セミナー風景

ここでは、「EA21 環境経営システム推進者の集い」についてご報告します。

今回はEA21 認証取得事業者より、首都圏の「建設業」で従業員20名以上の事業者を対象にして、案内状を出しました。都内の4事業者にはパネリストとして登壇頂き、EA21 を導入しての効果、問題点及び本業への取り組みについて自社の実情を交えて話し合いをしました。当MECCからは5名の環境カウンセラー(兼EA審査人)が話し合いに参加しました。

EA21 を組織の全員に展開するため、全従業員に「私のやることカード」を配布し、各自取組の目標を記入して携行させたり、また成果を確認する人を定めてその活動をチェックしている等の、各社で工夫している点や、困っている点を紹介しました。また自社の体験をもとにしたアドバイス、本業への環境活動の取組等について、予定の2時間を超えた活発な意見交換が行われました。

建設業のみ対象とした初めての取組でしたが、同業者同士のため、他社の事業内容をよく理解でき、自社の事に考えていただくことから、そのアドバイスは的確であり、有益な時間を過ごす事が出来ました。

また審査人に対して、「エコ活動が経営を良くすることにつながる事」及び「全体の効率をアップすることが環境経営であること」を審査を通じて経営層や全従業員に分かるようにして欲しい」といった要望が出されました。

生きもの語り 「日本の食の深い味わい方」

ECU環境教育インストラクター 林 鷹 央

国連大学での展示・セミナーは、中心となって企画していた糸井理事長が急に亡くなられたため、もしかしら会場で聴いているかも知れないと思いながらの生きもの語りでした。改めてお悔やみと今までの感謝の気持ちを申し上げたいと思います。また、大変な中、展示・セミナーの運営をしてくださったみなさま。ありがとうございました。

誰もが生きものを語る事の出来る場はないだろうか？ 科学だけではなく、文化や暮らし、動物の行動や植物の味なども含めた総合的な視点から、学者以外の人たちも自由に生きものを語る。科学が幅を利かせる前は当たり前の人々に語られていた生きものたち。特に身近な動植物、食材などは日本人の共通の認識でもあるため、共感がしやすいものであったりします。今回のセミナーが日常会話の話題に多様な生きものたちが登場するきっかけになれば、生物多様性向上に役立てば幸いです。

人間は地球を短期間で制圧してしまった状態ですが、なぜそのようなことが可能だったのか？という事を思った時、人間の食をみると納得できます。とにかく何でも食べる。甲虫のハムシ類やパンダ、コアラみたいに特定の植物しか食べられなかったらここまで分布は広がらなかったでしょう。

何でも食べてどんどん広がった先で農耕を始め、定着して行く。日本という地で先祖たちは何を食べて来たのだろうか？というところから日本人を見つめ直してみました。

すると今の当たり前が、かなり昔と違うことに気付きます。先祖たちと関わりの深かった動物の代表として「鹿」植物は「梅」などをピックアップして、味覚だけではなく、視覚や心でも味わう日本人の豊かな感性を再認識してもらいました。



導入では好きな食べ物を参加者にきいていきます

自然環境保全活動をしていると、日本ほど人間の暮らしが生物多様性に寄与していた民族は無いなあと思うほど生態系の一部にお百姓さんたちがマッチしています。その人たちの中で生まれた文化の一つである民謡の演奏を加えるなどして、生きものと文化が繋がっていることも伝えられたかと思います。生きものに惚れるとどんどん日本の奥深さが分かってきます。生きもの語りをすることで自然を愛し、生命を愛し、日本を愛する人が一人でも増えれば良いなあと思っています。



編集後記： 中西さんの後を継ぎ、今号より編集・発行責任を仰せつかりました。MECCの活動に大きな足跡を残された故糸井理事長には遠く及ぶことはありませんが、MECCの活動を紹介する唯一の機関紙である「MECCだより」をより良いものとしていくため、微力ながらお手伝いさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。(望月 眞)

発行者：NPO 武蔵野多摩環境カウンセラー協議会(MECC)事務局
〒187-0045 小平市学園西町1-24-3 川真田 直之
TEL：042-332-5152
ホームページ：http://www.mecc.or.jp/
編集者：望月 眞